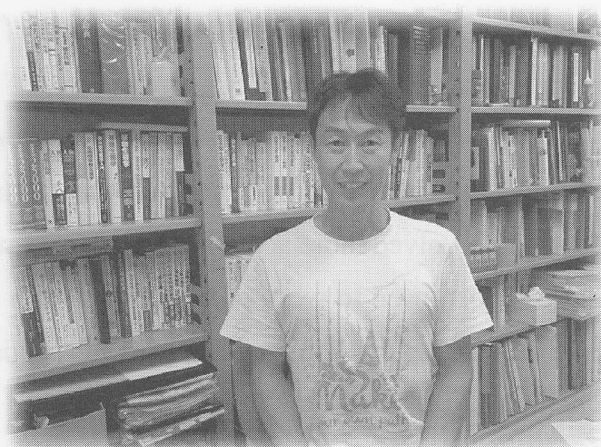


山田 俊弘 先生



研究分野：

生物学、基礎生物学、生物多様性・分類

Q. 今されている研究を教えてください。

ミャンマーの里山で森林保全の研究をしています。私の研究地では、ア

スファルト舗装された道に近いほど森林が守られていて、奥に行けば行くほど劣化が進んでいました。森林劣化を進めていたのは村人だったのですが、村人は幹線道路に近いと、他の村人の目を気にして森を荒らしません。しかし、奥の方では監視の目を盗みやすくなり、森を荒らしたりしていたのです。幹線道路があることで守られている森林もあることが分かりました。村人たちに森林を荒らさないように頼むにしても、彼らは木を切らないと生きていけないので、「木を全く切らないで」とは言えないんです。そこで、村人たちが自主的にルールを作って、木材を使いながら、森林が守れるようにするにはどうしたら良いのかを考えています。

Q. 先生が行われている種生物学の講義は保全生物学とどのようなかわり

があるのですか？

種生物学では、進化の仕組みの話をしています。そして、あまり生き物の保全の話には深入りはしないのです。さて、生き物を保全するとはどういうことでしょうか？地球に生命が誕生してから38億年が経ったといわれています。当然、私たちが持っているDNA・

遺伝情報には、38億年の進化の歴史が入っていることになります。例えば僕たちヒトが絶滅したします。すると、ヒトの持つ38億年の進化の歴史がそこで消えるということになります。つまり、僕たちが子孫を残しているということは、38億年の進化の歴史を次の世代に渡しているということになります、進化的にもすごく大切なことなのです。

私たちには、子孫を残したという気持ちがいっぱいありますね。他のどの

生き物もたぶん、この気持ちを持って
いることでしょう。それぞれの種が、
38億年の独自の、かけがえのない進化
の歴史を背負っていると考えらるなら
ば、それを残せるような環境をつくっ
てあげるということは正しいことな
のだと思います。こういう考えを身に
付けてもらって、生物を保全すること
に繋げてもらいたいのです。

生物を保全しようという話になっ
たときに、兎角、「生き物が私たちの役
に立っていますよ」という視点で考え
がちです。しかし、この考えではたぶ
ん、生物の保全には限界が来るのです
よ。この考えではもしかすると、「僕ら
のためなら他の生き物が絶滅しても
いいじゃないか」という極端な考えに
なってしまうかもしれないのです。そ
うならないためにも、（僕らのために
もなるのだけでも）彼らは彼らなりに
生き続けたいという気持ちがあつ

て、それを尊重してやるっていうのが
正義だぞ、という考えを身に付けても
らうことが大切です。私の中では、こ
うした気持ちを育ませるための講義
が、種生物学なのです。

**Q. どうしてミャンマーの森林を研究し
ようと思ったのですか？**

ミャンマーは世界でもかなり高い
森林減少率を持つ国なのですよ。ミヤ
ンマーでは森林減少が起こっている
最中だから、その現状を見ることのほ
うが、森林減少が終わって、森が無く
なってしまった所を見るより、大切だ
と思ったのです。きっと、減少してい
る所だからこそできることがあるだ
ろうし、手遅れになる前に何かしたい
と思い、ミャンマーに行きました。

**Q. 海外で研究をされるときに、現地の
人の協力が必要だと思えますが、どの**

**ように現地の人との繋がりをつくってい
るのですか？**

最初が難しいのですよ。最初の出会
いにはいろいろなやり方があって、と
りあえず行つて、向こうを転々として
いるうちに、自分と似たような考えを
している〇〇大学の〇〇先生ってい
う人がいるという情報を掴んで、共同
研究させてもらうというのもありま
す。しかし、このやり方だと見つから
ないときもありますし、たとえ見つか
ったとしても時間もかかりますから、
時間の制限があるときは、分野は違つ
ても、同じ国について既に研究したり
繋がりを持っている日本にいる先生
に、人を紹介してもらったりしていま
す。

**Q. 海外で活動していて言語で苦労した
ことはありますか？**

基本ミャンマー語は使わないので

すよ。英語で話して、現地の通訳の人にミャンマー語に直してもらって会話しています。この方法だと細かいところが伝わらないこともあるけど、まあどうにか(笑)。自然を観察するときには言葉の問題ないけど、聞き取り調査をしたりするときは不便ですね。明らかに通訳の人が、現地の人の気持ちを付度しているときとかがありますからね。まあそのあたりは、しっかり聞く、何度も聞くことで対応しています。

Q. 英語はやっぱり大事ですか？

どこでも通じる言葉としてとても大切ですね(笑)。言語は勉強するのがめんどくさいだけで、勉強さえすれば必ず身に付くものです。めんどくささगरらずに、英語の勉強をしましょうね。

Q. 海外で活動するにあたって、心に留

めておくべきことは何かありますか？

渡航前に計画していたことが、うまくそれ通りになることはまずありません。でも、だからといって、そこで消極的になる必要は無いのです。そうではなく、何ができるのかをもう一度練り直すことが大切だと思います。最初の計画にこだわりすぎないこと、失敗しても途方に暮れないこと、どこに行っても人間関係を大切にすることが大切なことです。そして、ちよつとした成功でも「成功体験」として捉えて、モチベーションをあげていくことも、めげないために大切だと思います。

Q. 研究活動をしていて良かったと感じることはありますか？

全部ですね(笑)。例えば、現地でたくさん会話したりして知らなかったことがたくさん知れることかな。あとは、全然知らない人から連絡をもらって

一緒に研究してみませんか？って声をかけてもらったり、海外の学会に呼んでもらったり。そういう風に輪が広がっていることもうれしいことです。

Q. 逆に、研究活動で厳しいと感じることとは何かありますか？

海外で活動するときは家族を日本に残していくから、その間、家のことは全部家族に押し付けてしまっています。それは本当に申し訳なく思います。

Q. 学生時代にやっておいて良かったと思うことはありますか？

総科的じゃないのだけどね、好きな教科をたくさん勉強していたかな。アルバイトに重点を置きすぎないようにして、できるだけ、自分の好きなことに自分の時間を使っていたことが良かったことかなと思っています。

Q. 総合科学部の学生に一言お願いします

英語とか外国語は、やりやあ伸びるから必ずやりんさい。そしてやめなさんな。

理系文系関係なく、自分のやりたいことができる総科のとってもすてきな環境を満喫してほしいです。他の大や学部では成し得ないことを総科の学生はできるのだから、総科の強みをしっかり理解して、弱くなりがちな専門性については、興味のある分野を究めることで対応しつつ、幅広くいろんな知識を身に付けてほしいです。

2018年度から、IGSという新しい学科が総合科学部に作られます。私は、そちらの教員となる予定です。IGSでは、留学生と共に、日本人の学生も英語で勉強を進めていきます。IGSが総合科学部にできることで、総合科学科の皆さんも英語を話す機会が増えるはずですよ。

「国際」も身近に感じられるはずです。IGSは、新しい総合科学部の強みになりますから、この環境をうまく利用して、新しい総科を作っていきましょう！新しい総科を満喫しましょう！楽しみにしておいてください！

あ、あと広島弁をうまく使えるようになっておくと、ぶちええと思うんですよ。

インタビュー担当

鈴木香苗、難波楓、山本昌奈実

★今回インタビューに答えてくださった山田先生が「夢ナビライブ2017」の中で大阪の高校生を対象に行った講義の映像を紹介してくださいました。左のQRコードからぜひご覧ください！

